

全 員 協 議 会

令和7年8月19日(火)
10時00分～ 時 分
全 員 協 議 会 室

〔出席議員〕

笹田議長、川神副議長

肥後議員、村木議員、大谷議員、沖田議員、村武議員、川上議員、柳楽議員、
串崎議員、小川議員、上野議員、布施議員、岡本議員、芦谷議員、永見議員、
佐々木議員、田畑議員、西田議員、牛尾議員

〔執行部〕

久保田市長、砂川副市長、岡田教育長、草刈教育部長

〔事務局〕 下間局長、濱見次長、森井書記

議 題

1 執行部報告事項

- (1) 寄附金を原資とした(仮称)益井俊雄奨学金制度の創設について (教育委員会)
- (2) その他

2 行政視察レポートについて

- (1) 福祉環境委員会
- (2) 議会改革推進特別委員会

3 第5回はまだ市民一日議会の発言者に対する返答について

4 第5回はまだ市民一日議会の振返り等について

5 その他

- (1) 自由討議について
- (2) その他

寄附金を原資とした（仮称）益井俊雄奨学金制度の創設について

1 趣 旨

篤志家の寄附金を原資として、給付型の奨学金を創設する予定としています。

本奨学金の原資は、吉本洋子氏（浜田市在住）、丸中美津子氏（大阪市在住）が、御兄弟の故 益井俊雄氏が自身の経験を踏まえて生前から思いを巡らせていた、「将来に夢や目標を持つ若年層が、経済的理由から、文化芸術・スポーツ等の活動や、海外での学習や探求活動等を諦めることのないよう支援したい」という遺志を継ぎ、本市へされた寄附金とします。

2 制度概要

① 学業、文化芸術・スポーツ活動等への支援のための奨学金

② 海外短期留学への支援のための奨学金

①、②共通事項

- | | |
|-----------|---|
| (1) 種 類 | 給付型奨学金 |
| (2) 対 象 者 | 高校生 |
| (3) 応募資格 | 住所要件 生徒：市内中学校卒業、保護者：市内在住
その他成績、経済条件の制限あり |
| (4) 制度期間 | 令和 8 年度～令和 32 年度（25 年間） |
| (5) 総事業費 | 約 120,000 千円 |

①個別事項

- | | |
|-----------|--|
| (1) 目 的 | 学業及び文化芸術やスポーツ活動等に取り組み、将来もその道が続きたい意欲を持ちながらも経済的に困難な奨学生へ奨学金を給付し、その負担の軽減を図る。 |
| (2) 採用人数 | 1 年度当たり 4 名 |
| (3) 給付金額 | 1 人当たり月額 30 千円 |
| (4) 給付期間 | 1 人当たり 3 年間 |
| (5) 事 業 費 | 約 100,000 千円 |

②個別事項

- (1) 目 的 世界に興味関心を持ち、海外で学習や探求活動を行う意欲を持ちながらも、経済的に留学が困難な奨学生へ奨学金を給付し、留学を支援する。
- (2) 採用人数 1年度当たり4名
- (3) 給付金額 1人当たり200千円
- (4) 事業費 約20,000千円

3 今後の予定

- (1) 寄附金贈呈式 令和7年8月22日(金)
- (2) 条例提案 寄附金を管理するための基金条例の設置等
(令和7年12月議会)
- (3) 補正予算 寄附金歳入、基金積立歳出の計上
(令和7年12月議会)

故 益井 俊雄 氏の略歴

1950（昭和 25）年、浜田市に生まれる。都内の大学を卒業後、自動車販売会社へ就職。

日本でのサラリーマン生活を経て、1981（昭和 56）年 2 月、31 歳の時に貿易の仕事を志し、渡米された。ロサンゼルスで皿洗いのアルバイトをしながら、様々なフリーマーケットに足を運び、ヴィンテージウォッチを購入。1985（昭和 60）年に帰国し、それらを商材として営業を開始された。

翌 1986（昭和 61）年に再び渡米し、ロサンゼルスを拠点に時計ディーラーとして本格的に活動を始め、日本市場向けのヴィンテージウォッチ卸業をスタートされた。1990（平成 2）年にアメリカで会社を立ち上げ、1996（平成 8）年に日本でヴィンテージウォッチ販売を手掛ける有限会社 VOGA（ヴォガ）を設立し、ヴィンテージウォッチ以外にも時計卸及び企画・販売をはじめられた。2003（平成 15）年に帰国し、2012（平成 24）年に浜田市へ帰郷されてからは、東京に通いながら会社経営を行った。

益井氏が 30 年以上かけて収集したコレクションは 800 本以上にのぼり、自分の人生を変えた存在であるヴィンテージウォッチを多くの人に見てもらいたいとの思いから、2017（平成 29）年、江津市に私設時計博物館「VOGA Watch Museum & Café（ヴォガ ウォッチミュージアム アンド カフェ）」を設立された。2022 年 2 月に逝去。享年 71 歳。

参考文献：

『ウォッチミュージアム ヴォガ アンティークコレクション』益井俊雄／著
（株）シーズ・ファクトリー／2017 年）

□表紙カバー、p. 9

『HODINKEE Japan Edition Vol.5』（株）ハーネスト婦人画報社／2022 年）

□p. 84、p. 87、p. 91、p. 96

『朝日新聞』（2023 年 4 月 20 日）



海士町視察報告

～地域内経済循環と脱炭素の同時実現に向けて～

浜田市議会 福祉環境委員会

令和7年7月16日（水）～17日（木）

視察先：島根県隠岐郡海士町

交交(こもごも)株式会社・AMAホールディングス株式会社

目次

- 1 視察概要
- 2 海士町の地域内経済循環モデル
- 3 中古EVリース事業
- 4 未来共創基金の仕組み
- 5 移住定着モデルの成功要因
- 6 浜田市への応用戦略
- 7 具体的アクションプラン
- 8 まとめ

自立分散型モデルの理念的基盤

祖先に恥じない日本を未来に

「いま生きている人それぞれに膨大な数の祖先が存在する。

300万柱の犠牲の上に立つ現代、祖先に恥じない日本を未来に残したい！」

— 交交株式会社代表

- 出発点は地域への思い：地域商品のマーケティングから始まり、地域主体の経済循環へ
- 地域資本の重要性：外部依存から脱却し、自らの判断で投資できる地域へ
- 世代間の責任：単なる現在の利益だけでなく、未来への持続可能性を重視

SINIC理論との共鳴

オムロン創業者立石一真氏による「SINIC理論」：
人類が自立社会にソフトランディングしていくための移行期に、私たちは今いる

分散社会と幸福度の学術的根拠

京都大学広井良典教授×日立製作所研究

「持続可能な日本の未来に向けた政策提言」により、幸福度の観点で分散型社会が集中型社会より有利であることが示された

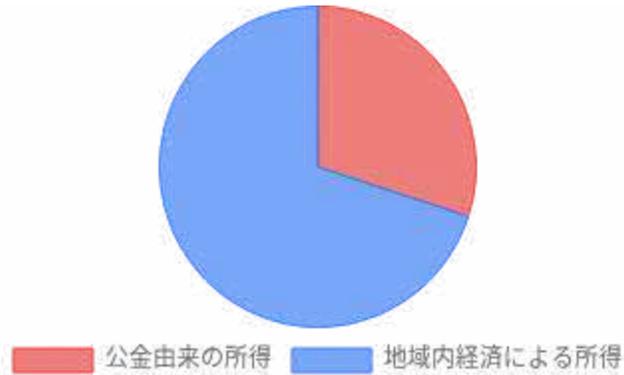
- 1 AIによる未来シミュレーション
都市集中型と地方分散の2つのシナリオを比較
- 2 地方分散型の優位性
人間関係の豊かさ、自然との共生、地域コミュニティの強さ
- 3 経済的自立の必要性
分散社会の持続には地域経済の自立が不可欠

現状の課題：地域経済の自立度

- 日本の地域経済は公金依存体質が強い
- 自らの判断で投資ができない状況から脱却が必要
- 「地域が自らの判断で地域の未来に投資する」ことが自立への第一歩

地域経済の危機と自立への転換

地域経済の公金依存体質



海士町の雇用者所得の約3割が公金由来

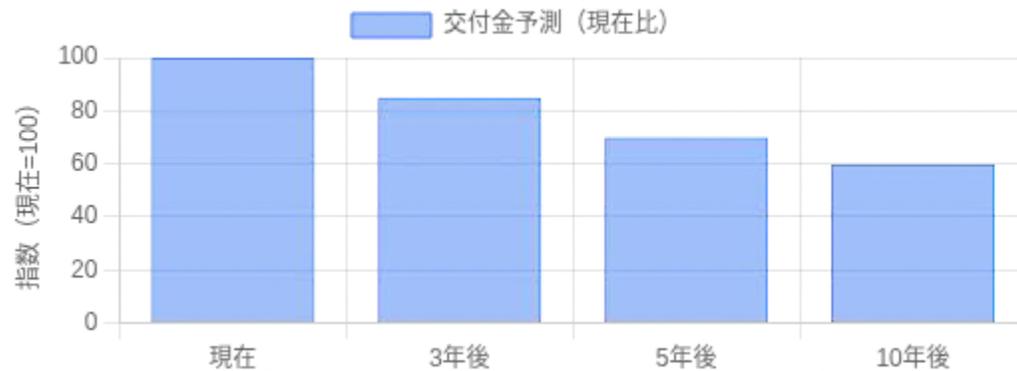
公金依存体質の厳しい現実

- 海士町：人口2,231人に対し一般会計予算100億円
- 1人あたり行政コストは都市部の約3倍
- 町の主要産業と雇用の多くが公的資金に依存
- 町債残高が大きく、財政の自由度が低下

交付金減少の切迫したリスク

- 少子高齢化による税収基盤の縮小
- 国の財政状況悪化による地方交付税の削減
- 今後数年で**交付金3割以上の減少**が予測される
- 外部資金依存からの脱却が急務

今後の交付金減少予測



今後数年で交付金は3割以上減少の見込み

自立分散型モデルへの転換は待ったなし

- 「地域で稼ぎ、地域に投資する」循環経済の構築
- 再生可能エネルギーを自立経済の起爆剤として活用
- 地域外への資金流出を防ぎ、経済の自律性を高める
- 公金依存から地域資源活用型経済への移行

i このままでは財政維持が困難に
自立経済への転換は待ったなしの課題

浜田市への示唆

海士町と同様の課題を抱える浜田市も、今こそ自立型地域経済への転換点。地域の持続可能性を高めるための決断と行動が求められています。

海士町の地域内経済循環モデル

地域主体の再エネモデル

- 交交(こもごも)株式会社を中心とした地域資本による運営
- 島民・地域企業が株式の51%以上を保有し、利益の島外流出を防止
- 年間約8億円の電力+石油代が島外へ流出する課題に対応
- 再エネ事業の利益を地域に還元し、人口2,231人の島経済を自立化

再エネ事業の具体的数値

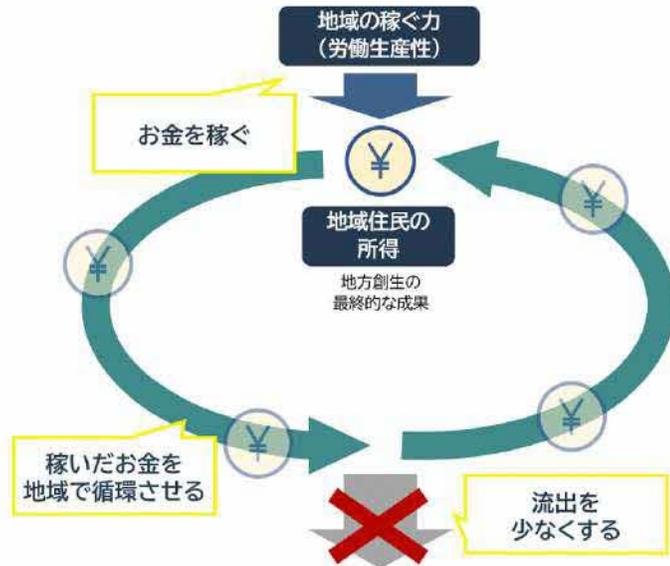
- 投資回収期間：通常10-13年を7-8年に短縮する高効率設計
- 設備耐用年数：日本製高品質パネルで40年以上の長期運用
- 年間CO2削減量：町全体で約1,200トン削減を目標
- 電力需要充足率：町内電力需要の約30%を再エネで賄う計画

地域経済への波及効果

- 外部のPPA事業者では地域還元率は0~5%程度
- 地域主体モデルでは最大10%の利益を地域に再投資
- 10年間で「粗利10億円産業」創出を目標に設定
- 再エネ収益を原資とした新規地域事業への投資（年間3,000万円規模）

具体的な地域還元策

- 再エネ収益を活用した中古EV普及（ガソリン代約2億円の地域内循環）
- 地域事業者との協業による新規雇用創出（5年間で15名以上）
- 子育て支援・教育環境整備への投資（0~19歳人口10年で12.6%増加）



地域内経済循環モデル

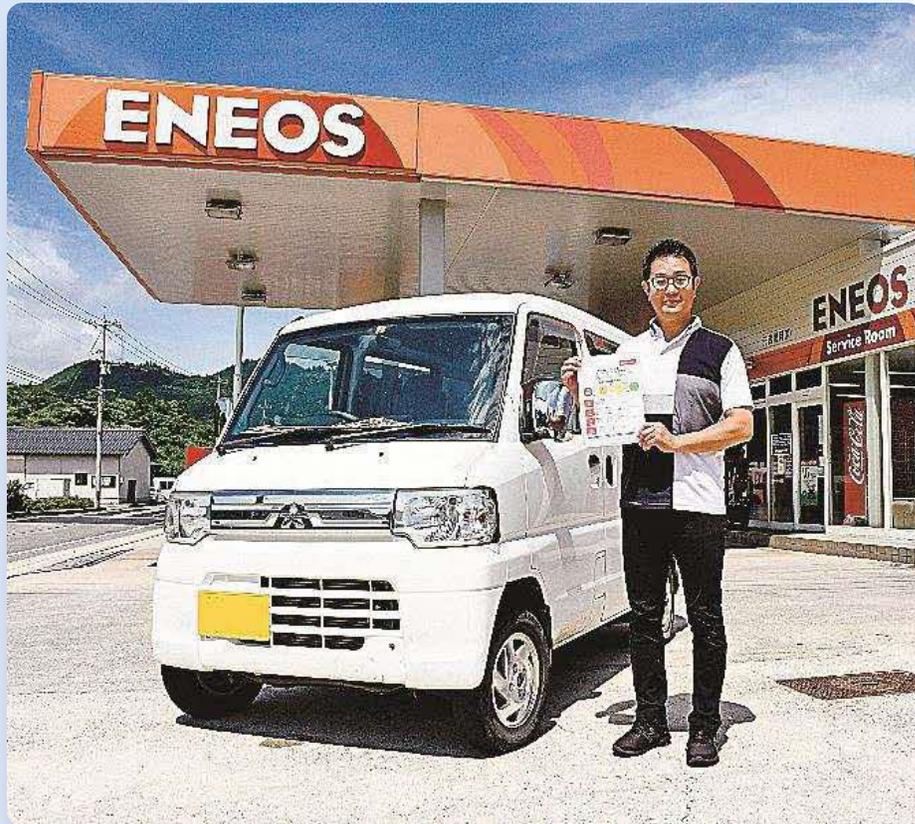
「地域で稼ぎ、地域に投資する」

交交株式会社の経済自立化戦略

地域内経済循環の効果（数値目標）

8億円 10億円 10%

島外流出防止 粗利産業創出 地域還元率



海士町EV推進協議会の実際の取組

ENEOSガソリンスタンドとの協業モデル
地域事業者が主体となった持続可能な取組

中古EVリース事業の詳細

事業の仕組みとガソリンスタンド連携

- 交交(こもごも)株式会社と町内ガソリンスタンド2社による共同事業
- 地域事業者主体で中古EVを調達・リースを実施
- ガソリンスタンドの新たな収益源の創出
- 地域内での新たな循環経済の構築

地域外への資金流出防止効果

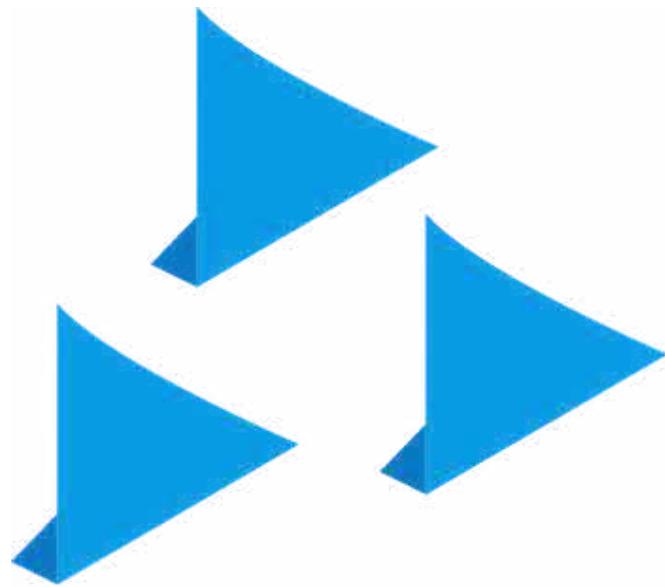
- 島外へのガソリン代流出を電気代に転換
- 島内発電の電力で充電することによる地域内経済循環
- 中古車活用によるコスト削減と地域負担軽減
- ガソリン代の削減による家計支援効果

自家充電モデルの特徴

- 公共充電設備に依存しない家庭用電源活用型
- インフラ整備コストの削減
- 災害時の電力供給源としての活用可能性

浜田市への応用可能性

- 市域が広い浜田市には充電ステーション戦略が必要
- 地元ガソリンスタンドとの協業による新事業創出
- 神楽電力との連携で電力の地産地消モデル構築
- 中山間地域でのEVモビリティ確保による生活基盤強化



一般社団法人 海士町 未来投資 委員会

魅力的で持続可能な島の未来のために

人づくりと仕事づくりの好循環をつくる

一般社団法人海士町未来投資委員会

2020年12月設立

島の未来に繋がる事業への投資・共創

未来共創基金の仕組み

基金の原資と特徴

- ふるさと納税を原資とした地域投資基金
- 申請条件は「海士町の未来につながること」
- 下限500万円という大胆な支援規模
- 上限ではなく下限を設定する画期的なスキーム

これまでの採択事例

- 「海が好きになるマリンポート事業」
- 「ナマコとともに生きていく」水産資源保全
- 「近くで作って近くで飲む」牛乳生産事業
- 「島のビールで乾杯を！」クラフトビール醸造
- 「最期まで家で過ごせる島に！」医療・介護支援

「みんなでしゃべる」共創・伴走体制

- 専門アドバイザーによる事業構想の深掘り支援
- 海士町内の伴走者が想いに寄り添い計画立案
- 多様な分野の専門家が「しゃばり(引っ張り)」事業成功を後押し
- 島内外のネットワークによる総合的サポート



海士町の移住者受入れ実績

現在人口: **2,231人** (2024年8月末時点)
移住者: 873人 (622世帯) (2004年~2021年)
定着率: **約47%** (全国平均を大きく上回る)
人口比率: 現在人口の**約18%**が移住者

移住定着モデルの成功要因

「よそ者」を受け入れる風土

後鳥羽上皇の流刑地という歴史的背景から、島外の人を受け入れる文化が根付いています。地域の課題解決に貢献したいという移住者の意欲を尊重し、新しいアイデアや挑戦を歓迎する風土があります。

具体的な移住支援制度

- 大人の島留学: 3ヶ月~1年間の就労型お試し移住制度
- 移住者数推移: 2020年21名→2023年140名→2024年140名→2025年180名 (予定)
- 複業協同組合: 多様な働き方を支援する仕組み

高い住民幸福度と経済効果

- 地域行事への参加率: 全国平均の**2.8倍**
- 仕事へのやりがいを感じている人: 全国平均の**1.5倍**
- 多様な生き方を認め合う土壌 (半農半X、複業など)

注目すべき成果

- 人口減少抑制: 予測1,611人→実際2,269人 (2024年)
- 0~19歳の人口: 10年で**12.6%増加** (地方では極めて稀)
- 産業構造: 第1次14.3%、第2次15.6%、第3次70.1%
- 移住者起業: 交交株式会社など新たな地域産業創出

浜田市への応用戦略



浜田市行政区域

山と海に囲まれた地理的特性を活かした展開を

地域内経済循環モデル構築の可能性

中山間地域におけるエネルギーシフトの重要性

- 浜田市中山間地域でのサービスステーション存続問題への対応
- 神楽電力をはじめとする地域電力会社の活用と支援強化
- 中古EV活用による地域内経済循環の促進

脱炭素化と経済活動の両立

- 環境問題と地域経済活性化の「一挙両得」モデルの構築
- ガソリンスタンドなど既存事業者との協力体制の確立
- 持続可能なビジネスモデルとしての環境対策の推進

外部人材の受け入れと支援体制

- 移住者による新たな発想と取り組みの積極的な受け入れ
- 挑戦を支援するシステムと中間支援組織の構築
- 金融機関、県立大学等との連携による起業環境の整備

地域資源の有効活用

- 神楽電力、風力・太陽光発電などの戦略的活用
- 地産地消のエネルギー循環システムの構築
- 産業活動と環境保全の両立を図る実践的取組の推進

今後のアクションプラン

本視察で得た知見を活かし、浜田市における脱炭素社会の実現と地域経済の両立に向けた具体的な施策検討を進めていきます。

4つのセクターによる連携

行政

政策立案・予算措置・規制緩和

民間

事業運営・技術導入・雇用創出

教育機関

研究支援・人材育成・知見提供

金融機関

資金調達・投資支援・経営助言

重点施策

① 中山間地域のエネルギー問題

サービスステーション存続問題等に対応し、太陽光発電による収益を地域内経済循環に活用する総合的なビジネスモデルを構築します。

② 外部人材の活用

移住者による新たな発想と取組を促進するため、外部から来る人材を積極的に受け入れ、その挑戦を支援するシステムを構築します。

③ 地域資源の戦略的活用

神楽電力をはじめとする地域電力、風力、太陽光発電など、浜田市が有する多様な資源を戦略的に活用した地産地消のエネルギー循環システムを目指します。

短期

調査研究・関係者協議

- ✓ 神楽電力との連携可能性調査
- ✓ 中山間地域エネルギー課題の精査
- ✓ 島根県立大学等との研究連携構築

中期

モデル事業実施・体制構築

- ⚙️ 外部人材受入・支援体制の確立
- ⚙️ 中山間地域でのEVモデル事業
- ⚙️ 地域資源戦略的活用の仕組み構築

長期

本格展開・効果検証

- ✓ 脱炭素と地域経済両立の成果測定
- ✓ 地域内経済循環の拡大・強化
- ✓ 持続可能な官民連携モデルの確立

まとめ

視察から得た知見

- 地域内経済循環と脱炭素の同時実現が可能
- 地域資源を活用した新たな事業創出の重要性
- 外部人材受入と地域住民の協働による相乗効果
- 持続可能な資金循環の仕組みづくり
- 官民連携による地域課題解決の実践例

浜田市への提言

「地域で稼ぎ、地域に投資する」循環型社会の構築に向けて

- 神楽電力との連携による地域内経済循環モデルの構築
- 浜田市中心間地域におけるエネルギーシフトの推進
- 浜田市版「未来共創基金」創設の検討
- 移住者・外部人材受入体制の強化
- 地域資源を活用した新たな産業創出支援

委員会の決意

福祉環境委員会は、今回の海士町視察で得た知見を活かし、浜田市における脱炭素と地域内経済循環の実現に向けて調査研究します。持続可能なまちづくりのため、地域特性を活かした新たな挑戦に共に取り組みましょう。



まちづくりの『成功事例』？いえ、全てが『挑戦事例』です。

離島における地域内経済循環モデルの先進地

豊かな自然環境と地域資源を活かした自立型コミュニティ



議会改革推進特別委員会

行政視察レポート

令和7年7月22日（火）

1. 日時：令和7年7月22日（火）

2. 視察先と調査項目

(1) 広島県三次市

◎ 任期中の議会・議員活動検証方法の構築について

(2) 広島県東広島市

◎ 一般質問・代表質問を政策提言に結び付ける取組について

3. 参加者 牛尾昭委員長、
沖田真治委員、村武まゆみ委員、小川稔宏委員、布施賢司委員、
佐々木豊治委員、田畑敬二委員

4. 視察目的 先進市議会における特徴的な議会改革の取組について視察し、
浜田市議会における議会改革の参考とする。
特に当市議会において取組を実施していない項目について、
重点的に調査し、今後の政策立案機能をはじめとする議会機能等
の強化に生かす。

◆広島県三次市議会 概要

- ・人口：47,565 人、世帯数：23,067 世帯（令和 7 年 4 月 1 日現在）
- ・面積：778.18 平方キロメートル
- ・令和 7 年度一般会計当初予算額：歳入・歳出 39,570,000 千円

（議会の概要）

- ・議員定数：22 人、現員 22 人
- ・常任委員会：総務常任委員会 7 名、教育民生常任委員会 7 名、
産業建設常任委員会 7 人、予算決算常任委員会 21 人
広報広聴常任委員会 7 名
- ・議会運営委員会：8 人 ・特別委員会：議会活性化等検討特別委員会 10 人
- ・議員報酬：議長 454,000 円、副議長 407,000 円、
常任委員長・議運委員長 387,000 円
常任副委員長・議運副委員長 376,000 円
議員 371,000 円
- ・政務活動費：1 人月額 30,000 円（所属会派に対して交付）

◆三次市議会における議会基本条例の評価・検証の取組

1. 議会基本条例の評価検証の取組①

- ・平成22年施行の議会基本条例に基づき、平成27年度に全条文の達成度を会派単位で内部評価。
 - ⇒「今後努力を要する」と判断された項目には取組目標を設定。
- ・議会基本条例を一部改正し、第20条において任期中に評価検証を実施することが義務化された。

2. 議会基本条例の評価検証の取組②

- ① 平成30年度議会基本条例の評価検証の取組①を有識者らによる外部評価を実施。外部評価では、市議会の役割は「市民福祉の向上及び市勢の伸展」であり、議会・議員は、自らどのように実践してきたのか、その検証が肝要であると指摘された。
 - ・**議員活動**：選挙公約実現に向けての「情報共有」「住民参画」「機能強化」を個人による主観的な評価検証。
 - ・**議会活動**：市民との関係、市長との関係、議会機能強化などを会派による客観的な評価検証。
- ◎評価検証に至った理由・・・市民アンケート（令和3年）の実施
 - 「公約の達成状況を知らせてほしい」「選挙の時だけ声を出すな、普段の行動で示してほしい」「有言実行を徹底せよ」などの意見が多数。

議員活動取組達成度判定表

区分	議員活動 自己分析	数値的指数	内容例
A+ (+5)	公約実現に向け設定した活動目標を上回る活動ができた	100%以上	・市民の期待に対して、十分に応えられた ・掲げた活動目標よりも高い水準で取組めた 他
A- (+4)	公約実現に向け設定した活動目標に近い活動ができた	80%以上 100%未満	・市民の期待にほぼ応えることができた ・活動目標に近い水準で取組めた 他
B+ (+3)	公約実現に向け設定した活動目標には少し届かなかったが、一定水準の取組はできた	60%以上 80%未満	・活動目標には若干届いてはいないが一定水準には達した ・目標値には若干届いてはいないが、想定した水準である 他
B- (+2)	公約実現に向け設定した活動目標に対し、取組が下回った	40%以上 60%未満	・市民の期待に十分に答えることができていない ・活動目標に届かない取組となった 他
C (+1)	公約実現に向け設定した活動目標に対し、大きく下回る取組となった	40%未満	・市民の期待に応えられるものではなかった ・活動目標に大きく届いていない 他
D (±0)	公約実現に向けての取組が出来ていない	10%未満	・理由はどうであれ、取り組めていない 他

議員活動取組達成度 評価検証シート（抜粋）

10

議員活動（公約取組）評価検証シート（対象期間：令和2年度～令和3年度）

取組の評価検証：A：80%以上（積極的な取組ができた） B：60%以上（一定水準の取組となった） C

主な活動項目・取組項目（全10項目）	達成度 検証	
(1) 日常的に住民や関係機関等と連携を密にし、合意形成を図っている	A+	5
(2) 地域報告会・団体意見交換会等で議会・議員活動について、説明責任を果たしてきた	B+	3
(3) 市政だよりの発行やホームページ等、あらゆる媒体を活用し、活動状況を発信している	C	1
(4) 住民自治組織や各種団体の活動に積極的に関わり、自らまちづくりを実践している	A-	4
(5) 住民・地域と行政とをつなぐ役割を積極的に担い、課題解決に向けての活動を行ってきた	B-	2
(6) 住民・地域の意見を常に問う窓口的な機能を有し、施策の参考としている	A-	4
(7) 一般質問等を通じて、公約の実現をめざして政策や課題改善の提案を行っている	A-	4
(8) 政策立案について、国・県、他市の状況等を調査研究し、しっかりとした根拠をもって行っている	A+	5
(9) 委員会審査等の質疑は、自らの考えのもとで要点を明確にした発言をしている	D	0
(10) 政策実現のため、研修会や勉強会へ参加し、個人のスキルアップを図っている	D	0

◎取組に向けて

・議員間では反対・賛成意見が出たが、まずはやってみようと実施したが、
実施後の市議会議員選挙投票率は低く、市議会への関心度の低さを痛感。

◎令和7年度議会運営委員会において改善

×「評価」取組を見た市民がするもの

○「検証」自らの活動を検証し、次の活動へつなぐ



◆広島県東広島市議会 概要

- ・人口：190,982 人、世帯数：93,012 世帯（令和 7 年 6 月 30 日時点）
- ・面積：635.16 平方キロメートル

（議会の概要）

- ・議員定数：30 人、現議員 30 人
- ・常任委員会：総務委員会 8 人、文教厚生委員会 7 人、市民経済委員会 7 人
建設委員会 7 人
- ・その他の委員会：議会運営委員会 8 人、広報広聴委員会 10 人
- ・特別委員会：予算特別委員会 決算特別委員会
- ・議員報酬：議長 560,000 円、副議長 507,000 円、議員 460,000 円
- ・政務活動費：議員 1 人につき月額 25,000 円



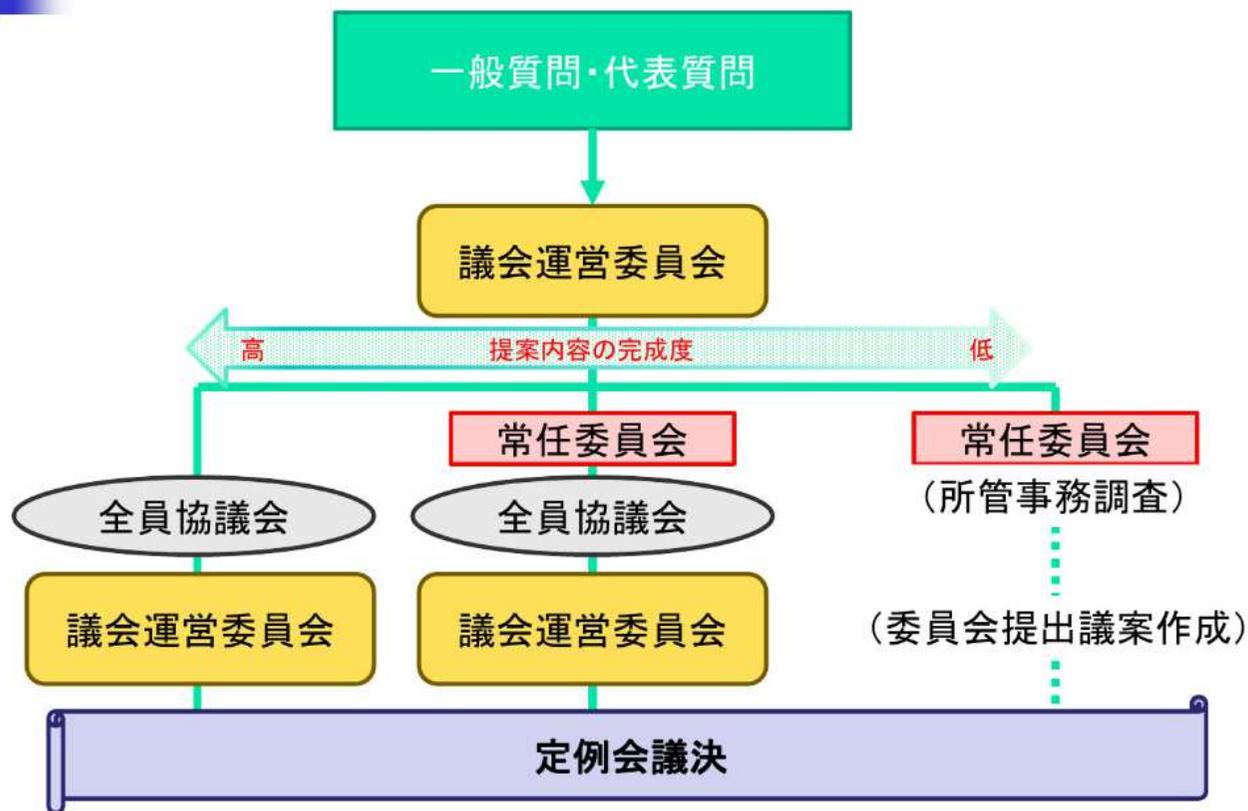
◆一般質問・代表質問を政策提言に結び付ける取組

◎経緯 議長から議運に「一般質問等を政策提言に結び付ける取組」の構築について諮問され、視察・12回の協議を経て決定。

◎目的 一般質問・代表質問で行われた議員個々の政策提言を議会全体として政策提言に結び付け、市民の負託に的確に応え、市の豊かなまちづくりの実現に寄与すること。



提言までの流れ



- ・一般質問終了後、自薦・他薦によりテーマを議会運営委員会に提出。
- ・議会運営委員会で、テーマを確定
⇒提案の内容を確認し、取扱を協議。
- ・全員協議会又は常任委員会で協議。
- ・議会運営委員会での協議を経て議案提出。
- ・定例会において議決。

◆ 取組状況

・実績：3回（R6年第2回定例会、第3回定例会、R6年第4回定例会・R7年第1回定例会）現在、R7年第2回定例会後の取組を実施中。併せてこの取組の見直しの協議も実施中。

◆ 取組結果

- ・1回目：「ユニバーサルデザインに配慮したトイレの整備環境に関する決議」
 - ・2回目：「耕作放棄地など不作付地の有効活用と拡大防止に関する決議」
 - ・3回目：「次世代への継承と世界に向けた平和施策の展開に関する決議」
- ※1回目は予算編成を経て実行している。



◆委員会の考察

1. 任期中の議会・議員活動検証方法の構築について（三次市議会）

○議員が公約に掲げたマニフェストの実現にどう取り組むかは、議員活動の根幹をなすもの。
○自己検証を通じて資質を高め、取組の進捗を市民に「見える化」することは市民からの重要な要請である。

● 予算提案権を持たない議員が公約を実現する力は限定であり、達成度を客観的に評価することは困難である。



全議員が足並みをそろえて取り組める環境が整うまで、**本制度の導入は見送る。**

◆委員会の考察

2. 一般質問・代表質問を政策提言に結び付ける取組について（東広島市議会）

○議会の政策提言機能を強化し、一般質問や代表質問を議員個々の活動から議会全体の政策提言へとつなげる点において、大変魅力的であった。

●浜田市議会を導入するに当たっては、周到な制度設計と全議員の深い理解がなければ導入は難しい。また前提として議員間討議の活性化など更なる検討が必要。



本制度は議会改革推進特別委員会で**検討すべき課題である。**



はまだ市民一日議会でご発言くださり、ありがとうございました。

議会での協議結果を以下のとおり報告します。

令和7年8月19日
全員協議会資料

番号	1	テーマ	浜田城・海浜公園等観光資源の活性化策
氏名	たけした ひろし 竹下 洋		
内容	<p>浜田城址の本丸から見下ろす風景が雑木林のために見下ろすことができない。最近、米子城址など戦略的に観光資源として使うのがTV等でよく取り上げられているが、浜田市は今後についてどう考えているのか。本丸跡地の見晴らしをよくし、観光拠点としてアピールするのはどうか。</p> <p>海浜公園は県の管轄ではあるが、「〇〇禁止」看板があまりに多く、県費を使いながら工夫が見られないのは残念だ。景観がとても良い場所が数カ所あるので、フォトコンテストをしたり、記念碑等を建てて写真スポットとして活用するのはどうか。</p> <p>(対応) 浜田城址については総務文教委員会で対応協議する。海浜公園についてはいただいた意見を公園を管理している指定管理者へ伝える。</p> <p>(対応先協議結果)</p> <p>海浜公園については、いただいた意見を公園を管理している指定管理者に報告いたしました。指定管理者からは、公園設置者である島根県に内容を伝え、対応協議していただくようお願いするとの回答をいただいております。</p> <p>【総務文教委員会】</p> <p>城山(浜田城址)は文化財に指定されており、県の指定等により伐採などの行為には一定の制限があります。</p> <p>本丸跡地からの見晴らしの改善については、これまでの経緯や現在の管理状況を踏まえ、樹木伐採の可否や条件について正確に把握する必要があります。</p> <p>今後、教育委員会と協議を行い、伐採に関する現状の課題や見解を確認し、必要な対応を求めてまいります。</p>		

はまだ市民一日議会でご発言くださり、ありがとうございました。

議会での協議結果を以下のとおり報告します。

番号	2	テーマ	教育の重要性について
氏名	あもう たかひこ 天羽 貴彦		
内容	<p>社会は常に変化し、その変化を形作るのは今までの教育を受けてきた私たちです。</p> <p>つまり、今の社会がどのように進化し、持続可能なものとなるかは、教育への投資によって大きく左右されます。</p> <p>特に現代の AI や IoT の進化、グローバル化や多様性の時代では、単なる知識の習得ではなく、問題解決力や創造力、適応力が求められます。</p> <p>そのため、教育のリビルドには単にカリキュラムの変更だけでなく、学習の環境や方法の革新も必要になると考えます。</p>		
<p>(対応) 総務文教委員会で対応協議する。</p> <p>(対応先協議結果)</p> <p>教育の在り方に関するご提言は、現代の社会課題に即した重要な視点を含むものと受け止めています。</p> <p>AI や IoT の進展、多様性の尊重など、時代の変化に対応する力を育むためには、教育内容だけでなく、学びの環境や方法の見直しも必要であるとのご意見は、大変示唆に富んだものです。</p> <p>テーマが広範であることから、直ちに具体的な対応を講じることは難しい面もありますが、ご発言の趣旨を整理の上、教育委員会と意見交換を行い、今後の取組方向について共有してまいります。</p>			

はまだ市民一日議会でご発言くださり、ありがとうございました。

議会での協議結果を以下のとおり報告します。

番号	3		
氏名	むかい 向井 満樹	テーマ	限界集落における、活動状況のスリム化
内容	<ul style="list-style-type: none">・現状の問題点・高齢化に伴う、活動範囲の限界（例えば、農地維持管理、地域内の役員役職対応）・現状に合った活動の見直し・従来型の組織の守備範囲の見直し・行政最小単位の地区の活用・行政最小単位の地区の活動支援		
<p>(対応) 総務文教委員会で対応協議する。 (対応先協議結果) 中山間地域における地域活動の担い手不足や、従来型の活動形態が現状にそぐわなくなってきたとのご指摘は、今後の地域運営において重要な課題であると受け止めています。 地域の実情に応じた活動の見直しや、行政最小単位の地区の活用・支援のあり方については、現在浜田市が実施している「まちづくり総合交付金」や「地域支え合い支援制度」などの支援制度を、より実態に即した形に見直していく必要があるとの観点から、これらの制度を所管するまちづくり社会教育課と協議してまいります。</p>			

番号	4		
氏名	まつかわ 松川 祥子	テーマ	参加型のイベントがしたい
内容	<p>私は浜田市に住んでいて、イベントが少ないと感じています。調べてみると、年間で約40ものイベントがあり、意外と多いことが分かりました。ではなぜ少ないと感じていたのか考えてみたところ、参加型のものが少ないのではないかと思いました。40のイベントの内容はほとんどが神楽やステージイベントなどの見て楽しむものでした。私たち市民や若者が実際に体験できるものがもっとあると良いと思いました。例えば、スタンプラリーや宝探しなど街をまきこみ、商店街の活性化にもつなげられると良いと思います。</p>		
<p>(対応) 産業建設委員会で対応協議する。 (対応先協議結果) 浜田市に対して、参加型イベントの計画の検討と、現在浜田市が行っているイベントへオープン参加できるよう検討することを伝えます。</p>			

はまだ市民一日議会でご発言くださり、ありがとうございました。

議会での協議結果を以下のとおり報告します。

番号	5	テーマ	「ミライ☆メーカー浜田」 ～子ども×若者×地域が相乗効果を生む循環モデルを～
氏名	ふるかわ 古川 ひろみち 弘道		
内容	<p>「浜田をポジティブに」をキーワードに、子どもたちや若者のやってみたいことを、大人が本気で実現していく取組を考える。</p> <p>○子ども×若者が主役になれる3つの取り組み</p> <p>①【小中学校】</p> <p>今やってみたいことまたは将来やってみたいことを1校1校の「夢ボード」に書いてもらい市や企業がその夢ボードを実現していく。</p> <p>●自分の夢を、大人たちが実現してくれた姿を見ることで「憧れ」や「浜田ってすごい」が生まれます。</p> <p>②【高校】</p> <p>生徒がミニ会社を起業し、商品企画→製造→商売→決算までを実体験してみる。</p> <p>●実際に仕事を体験することで、仕事の仕組みを理解し、働くことのすごさや興味関心が増し、地元での企業や就職につながる。</p> <p>③【大学】</p> <p>小・中・高校時代にあったらよかった遊び場、店舗を大学生がプロデュースし、空きスペースや、空き家等で期間限定の運営をする。</p> <p>●自分たちが過ごしてきた時代のことなのでアイデアが生まれやすいことと、近い年代のかかわりの中で、笑顔や異年齢児とのコミュニケーションが生まれ、大学生には感謝と憧れが向けられる。それ以外の子どもたちには居場所や遊び場が提供される。</p> <p>参加した大人や市の職員・企業については「ミライ☆メーカー」バッジや認定書を交付し、子どもたちの為に本気になった証を誇れるようにする。企業にとってもPRや広告になり得ることとなります。「バッジは”動く広告塔”もらった子どもも、支えた大人も、身に付けて歩くたび浜田の未来をPRします。”ミライ☆メーカー”をまちじゅうに」増やしましょう」</p>		
(対応) 個人一般質問で取り上げる(大谷学議員)。			

はまだ市民一日議会でご発言くださり、ありがとうございます。

議会での協議結果を以下のとおり報告します。

番号	6	テーマ	救命講習の定期開催について
氏名	ふじた あすか 藤田 明日華		
内容	<p>私は浜田市で定期的な救命講習を行った方が良いと思います。理由は、私が先日新聞を読んでいる時に安来市で年間約 90 回の救命講習が行われていることを知り、浜田市でも行うことで助けられる命が増えると思ったからです。調べてみると、浜田市は定期開催ではなく学校や職場単位で申し込みば講習を受けられるという現状でした。安来市は講習開催の 1 カ月前に申し込みば講習を受けられるそうです。安来市は浜田市に比べて定期開催のため受講しやすい雰囲気を感じました。ぜひ、浜田市でも定期開催を検討していただきたいです。</p> <p>(対応) 総務文教委員会で対応協議する。 (対応先協議結果) 浜田市においては現在、救命講習は、主に学校や職場、地域などの団体単位での申込みにより実施されています。 ご指摘のように、他市では個人が参加できる定期講習が実施されており、受講の機会が広がっている例もあります。 こうした点から、地域や団体といった枠にとらわれず、個人が参加できる救命講習の定期開催には一定の意義があると受け止めています。 今後、消防本部と協議を行い、個人参加型の定期講習の実施が可能性や体制、課題を含めて検討し、実施できるよう求めてまいります。</p>		

はまだ市民一日議会でご発言くださり、ありがとうございました。

議会での協議結果を以下のとおり報告します。

番号	7	テーマ	島根県立大学 浜田キャンパス学生の家賃補助金
氏名	もり 森 こうすけ 洸介		
内容	浜田市の家賃補助金について		
<p>(対応) 総務文教委員会で対応協議する。</p> <p>(対応先協議結果)</p> <p>島根県立大学浜田キャンパスの学生に対する家賃補助についてのご意見は、若者の定住促進や学びの環境整備の観点からも、重要な課題であると受け止めています。浜田市としても、学生の皆さんが暮らすアパート等の家賃の高さについては認識しており、過去には業界に対し「学生の賃貸料に可能な限りの配慮をお願いしたい」との文書を出した経緯もあります。</p> <p>現時点では、家賃に対する直接的な補助制度を設けることは難しい状況ですが、一方で、学生の生活を支える取組として、学生の意見を反映した「交通支援事業」や「ワンコインバス」などの施策を実施しています。</p> <p>今後も、いただいたご意見を参考に、若者に選ばれるまちづくりを進めてまいります。</p>			

はまだ市民一日議会でご発言くださり、ありがとうございました。

議会での協議結果を以下のとおり報告します。

番号	8	テーマ	浜田市のサードプレイスについて
氏名	いのうえ こういちろう 井上 弘一朗		
内容	浜田市では若年人口が過去 10 年で約 32%減少し、高校生・大学生ともに「居場所がない」「遊べる場所がない」との声があります。私たち島根県立大学の学生を中心に、高校生と連携し、商店街の空き店舗等を活用したチャレンジショップ型サードプレイスを提案します。若者が地域製品の販売やイベントを通じて実践的に学び、地域に貢献できる場です。クラウドファンディングや補助金を活用し、持続可能な地域づくりを目指します。		
<p>(対応) 総務文教委員会・産業建設委員会で対応協議する。</p> <p>(対応先協議結果)</p> <p>【総務文教委員会】</p> <p>商店街の空き店舗を活用したチャレンジショップ型のサードプレイスは、地域とのつながりを深めながら、若者が実践的に学べる場として大きな可能性を持つものと感じています。</p> <p>新規創業等の支援を所管する産業建設委員会と、若者の活動の場の整備などを所管する総務文教委員会とで連携し、サードプレイス設置の実現性について定住関係人口課など関係部署と協議してまいります。</p> <p>【産業建設委員会】</p> <p>ご提案の内容について、もう少し詳しくお話を伺いたいので、井上さんのお時間が許せば、改めて意見交換を行いたいと思っています。また、その機会がつかれるのであれば、井上さんの周りで同じような思いをお持ちの方にも、ぜひ一緒にお話を伺いたいです。</p>			

第 5 回はまだ市民一日議会の振返り等について

第 5 回はまだ市民一日議会実施後の発言者・傍聴者アンケートに寄せられた意見及び議員の感想・改善点については以下のとおりです。

1 発言者・傍聴者アンケートに寄せられた意見

(1) 気づきや発見

【発言者】

- ・自分の小さな気づきに対して、掘り下げてくださってとても有難かった。議会にとっても興味を持ちました。ありがとうございました。
- ・新しい出会いやつながりがうまれました。
- ・私の定められた時間でのスピーチ力の不足。
- ・議場の皆様の声が聞きづらかった。
- ・いろんな意見があることが分かった。
- ・自分の考えからの視点だけでは考えられないことを言われて、新しい考えに気が付きました。

【傍聴者】

- ・若い人が多くてたのもしいと思いました。
- ・浜田のことを思う市民のみなさんが多いことが、心強く感じました。

(2) ご意見・ご感想

【発言者】

- ・今回参加をさせてもらって、とても大きな学びがありました。市議会の皆様の真剣な態度に感動しています。どの方の発言も、浜田市の未来に向けての大きな確かな提言だと思いました。浜田市の未来が誇りをもてるものになるように私もできることを探してみたいです。
- ・ゆっくり考えてから、また話ができる機会があればよいと思います。
- ・ただ私に与えられた5分を十分に使えなかった事がくやしいです。
- ・貴重な時間をありがとうございました。
- ・楽しく意見を言える雰囲気ですごくリラックスできました。ありがとうございました。

【傍聴者】

- ・この「一日議会」はもとより、日頃の努力の賜でしょう。議長を初め議員・事務局の頑張りに感謝しましょう。

(3) 議会への期待

【発言者】

- ・浜田市の老若男女が、安心して生活できる社会を作られること。
- ・若者の応援を。
- ・教育に投資して欲しい。
- ・より若年に。
- ・検討していただけるとうれしいです。

【傍聴者】

- ・浜田市をよろしく願います。
- ・有言実行。

2 議員の感想・改善点

(1) 感じたこと、感想

肥後	このまちを住みやすくしたいとの参加者の熱意が伝わった。
村木	<p>高校生の視点、まとめ方、論点整理そして話し方がとてもすばらしく、自分自身に参考となった。</p> <p>教育に係る意見が複数あった。議員の中で、テーマを決めて自由討議できればと思う。</p> <p>地域の課題解決における交付金の対象について、どこまでが公共なのか。自問自答である。</p> <p>救急法の受講機会については、目からうろこであった。このことは、私の活動に活かしたい。</p> <p>駅前の空き店舗にチャレンジショップについては、個別意見書に書いた通り、委員会で視察したところを参考にしてはどうかと思った。</p> <p>改めて浜田市は、「学校」のまちである。県大以外にもリハカレや高看、ビューティーカレッジもある。在校生を活かし、第二のふるさととなるよう今後も頑張りたい。</p>
大谷	今回は、年度替わりの時期の案内文書の送付となったが、文書を受け取ったと思われる担当者の転勤によって内部で引き継ぎができていないところがあった。過去に参加者が多かったところに対してはその後の様子を問い合わせる連絡を入れた方が良かったかもしれない。
村武	<p>例年と時期が違ったからか申込みが集まらなかったため、開催できるか心配した。定員には足らなかったが、多様な年齢の参加があり、また様々なご意見をいただくことができてよかった。</p> <p>議員任期が迫る中、ご意見を聞いても、実際その対応ができるのは改選後になることもあるので、実施をしてよかったのかどうかは結果的に悩むところである。もし4年後に開催する場合は、そここのところをしっかりと協議検討する必要がある。</p>
川上	今回は参加者数が減少したが、発表内容には、行われている事業への期待や要望にかなり深いものが見受けられ、我々議員が酌み取らなければならない市民ニーズを表しているようでした。
柳楽	<p>発言者の皆さんが提案に必要な調査を行われていることが伝わり、素晴らしいと感じました。議員が聞いて執行部に伝える・要望する・質問で取り上げることも大切だとは思いますが、直接執行部に聞いていただきたいとも思います。</p> <p>これまでも反省で出ていましたが、議員の質問時間で自身の意見を述べるのではなく、その発言内容について確認したいことを端的に述べないと時間が足らなくなると思います。</p>
串崎	高校生のしっかりしたご意見でした。
上野	<p>定員10名に達しなかったことが残念。</p> <p>まちづくりセンターへチラシ等をお願いしたが、住民へのPRが不足。</p>
布施	特に若者世代からの意見や提案は、地域井戸端会から出る意見、地元や団体の陳情活動とは違うものがあり、普段あまり接しない年代の意見は大変得るものがある。
芦谷	事後の作業の第一段階として、意見にあるその背景、現状、指摘、提案などに対する、執行部としての現状の確認を求める。(執行部に求めるのは、政策化の検討など次の段階ではなく、いまの状況確認にとどめる)
佐々木	<p>回を増すごとに登壇者の発表内容がレベルアップしていると思う。</p> <p>高校生も含め提案に至った経緯や調査、実施による効果など理にかなった内容が多くあり、そのまま一般質問に変える事もできる内容もあったように感じる。議員もしっかりしないと。</p>
西田	<p>5回目になると「はまだ市民一日議会」が少しずつではあるが、市民に浸透してきているのではないかと感じた。</p> <p>若年層の市民も議会に対する垣根が、あまり高く感じなくなっているように思えた。</p> <p>率直な意見が聞けた。</p>
川神	はまだ市民一日議会も回数を重ねて5回を迎えたが、回数を重ねるたびに発言者の要望事項から、提案事

<p>項が増加してきているといえる。きちんとした地域課題の抽出から、その解決のための分析・提案等、議員である私たちも大いに参考とすべき発言に感銘を受けている。さらに、県立大学生等市外から浜田に移り生活をされている方々の外部視点も貴重なポイントではないかと感じている。</p> <p>これらの貴重な発言・提言に関しては、その取扱いを議会で議論しているが、確実に議会として市政に反映すべき取組を実施することが重要だと感じる。今後も風通しの良い議会運営、市民との距離感が縮まる議会ミッションとして進化していけば嬉しい。</p>
--

(2) 気になった点、改善すべき点

肥後	質問・答弁の持ち時間5分は短く感じる。
村木	担当仕分けについて、他の公聴と同じように、議長・副議長・議運正副で仕分けしてはいかがでしょう。
大谷	発表者に対する質問時間が5分と制限がある中で議員側が感想や質問に向けての説明等で時間を消費し発表者の回答の時間が少なくなったケースがあった。発表者側の回答時間を確保するためにも議員側の1人1回あたりの質問時間の目安を申し合わせた方がいい。例えば30秒以内とか。 各発表者の意見に対する取り扱いについては、全議員から意見が提出されているので陳情の振り分けと同様に例えば議長・副議長・広報正副委員長の4名で協議して原案を提示して全員協議会に臨んでほしい。全員協議会では原案をもとに一括で協議し、意見が分かれ方向性が定めにくいものについてのみさらに意見を求め集約することとした方がいい。方向性が明らかなものに対して多くの時間を使う必要はないのではないかと感じる。
沖田	発言時間、質疑応答の時間が少ないように思えた。今後、発言、質疑応答の時間については改善が必要と考える。
村武	今回の発言者は8人であったが、発言者は10人でなくても良いと感じる。発言者を減らして、一人の発言時間を増やしたらいいと思う。発言内容を5分にまとめるのは難しいと思う。
川上	発表時間はこの程度が良いが、発表者の思いを汲み取るには質疑時間が短すぎるので倍程度に。また議員側の質問は、長々としたものにならないようにすべきです。
柳楽	進行について特に気になる点はありませんが、発言者の持ち時間はもう少し長くしてもいいかもしれません。
小川	発言内容へのその後の対応について若干負担感があり軽減できないかという思いはある。 進行は順調で気になる点や改善すべき点は特にないと思う。
上野	役割分担タイムスケジュール等はよかったと思う。 発表者のテーマについて議員で前もって話す機会があればよいと思う。 発言時間が短く感じた方がいるのではないか。
芦谷	意見などが市政全般にかかわることであり、執行部の傍聴のみ求める。(執行部としての広聴機能※) ※発言者は市政に対して行っていると思われ、将来、地域井戸端会も含め「市政の広聴機能」「市政への意見や要望」として捉え、執行部が参画する仕組みを検討する。
永見	進行については大変良かったと思うが、発言者の中には発言時間が足りない方もおられたので発言時間については今後検討する必要があると感じた。
佐々木	提案内容によってはもう少し聞きたい場面もあったが、時間の制約があるため確認できなかった。一工夫あればありがたい。
西田	あらかじめリハーサルしておくことが、参加者にとって落ち着ける。
川神	受付に始まり、進行における注意事項の伝達等、今までの経験が生かされており課題は特に感じていない。ただ一応に参加者は緊張されているので、具体的には思いつかないが、少し緊張がほぐれるような対応があればいいのではないかと考える。 また、発言・質疑応答の時間に関して少し見直しても良いのではないかと感じている。特に質疑応答に関しては発言者の思いがしっかり出せるように時間を増加しても良いのではないかと感じる。ただ時間増加は全体の運営上のバランスを考えなくてはならない。
牛尾	次回からは、小中高校・大学生に出てもらうような仕組みを構築してはどうか。 少し時間を与えて、満足度の高い発表してはどうか。

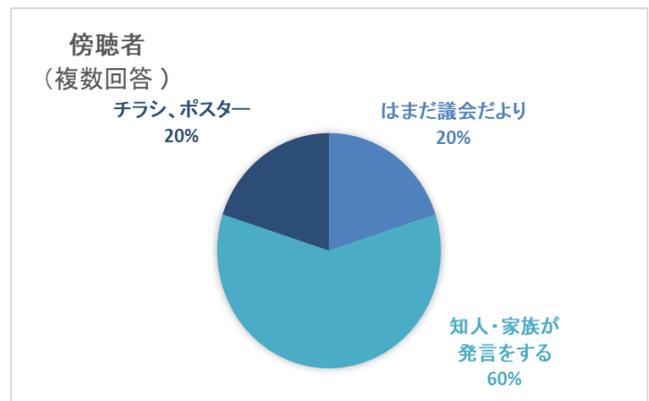
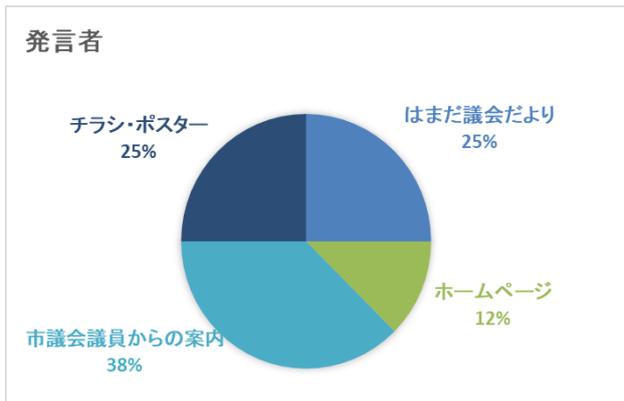
第5回はまだ市民一日議会 アンケート集計結果

1 参加人数及び傍聴者アンケート回答者数（当日の傍聴者は13人）

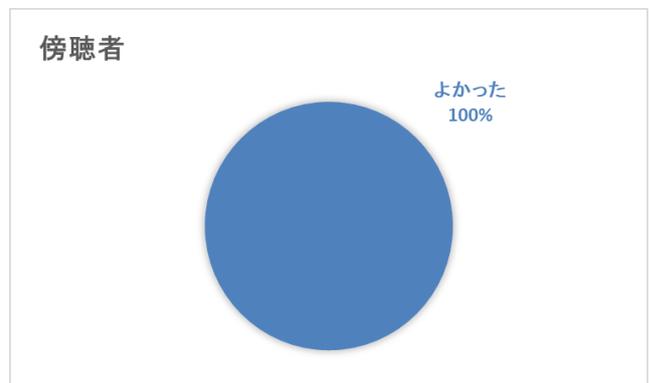
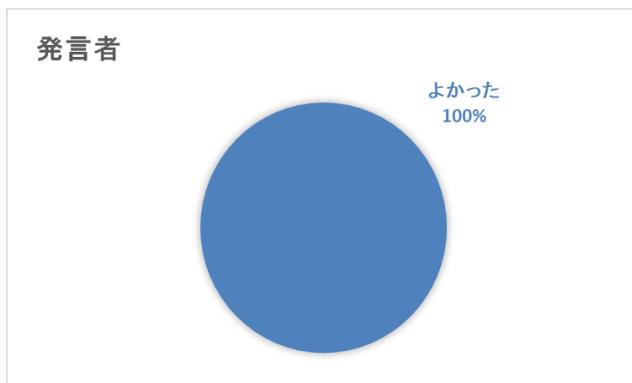
発言者	8人			傍聴者	5人（アンケート回答数）		
年代	20代未満	3人	37.5%	年代	20代未満	-	-
	20代	1人	12.5%		20代	-	-
	30代	1人	12.5%		30代	-	-
	40代	0人	0%		40代	-	-
	50代	1人	12.5%		50代	2人	40%
	60代	2人	25%		60代	2人	40%
	70代以上	-	-		70代以上	1人	20%

20代未満から60代まで偏りのない比率となった。学生の家族など、傍聴席に初めて来られた方も多かったと思われる。

2 参加、見学のきっかけ（複数回答）

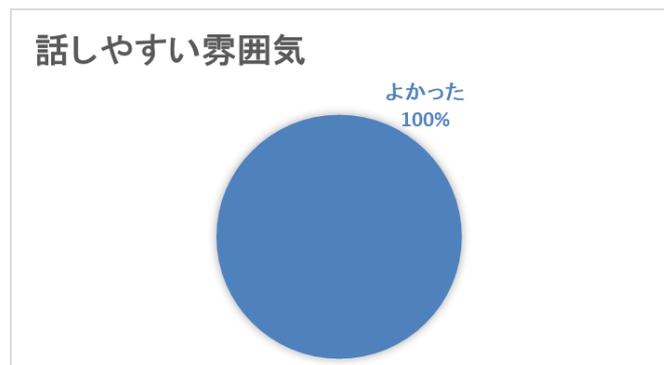


3 会の進行



会の進行については、終了後の反省点等を踏まえ、改善している効果もあり、発言者及び傍聴者の全員が「よかった」と回答しており高い評価となっている。

4 会の雰囲気



話しやすい雰囲気については、実際に登壇して練習していただくなどの効果もあり全員が「よかった」と回答している。

5 「気づき」や「発見」の有無



発言者にも傍聴者にも多くの方が一日議会の中で自身の中に気づきがあったことがうかがえ、参加者にとっても大変有意義であったと思われる。

6 満足度



「とても不満」を選択された方については、「ただ私に与えられた5分を十分に使えなかった事がくやしいです。」との感想をいただいております、「自分がもう一度出たい」とも回答されていた。

7 次回の参加等



「参加を知人に勧める」が57%で「分からない」が29%となっている。また、傍聴者については「また聴きにきたい」が100%と高い評価となった。

8 総括

参加者の満足度等は高い一方で、今回は定員の10名を満たさない8名の参加となり、発言希望者の減少が課題となった。今後の開催では、発言希望者が少数になる可能性があることを踏まえ、周知方法や運営について協議していく必要がある。